

資産運用における長期投資の効果

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)は、2015年度の運用実績が、円高や株安の影響で年率3.81%のマイナスになったと7月末に発表しました。5年ぶりのマイナスとなりましたが、2001年度の市場運用開始以降の収益率は、年率2.7%とプラスを維持しています。

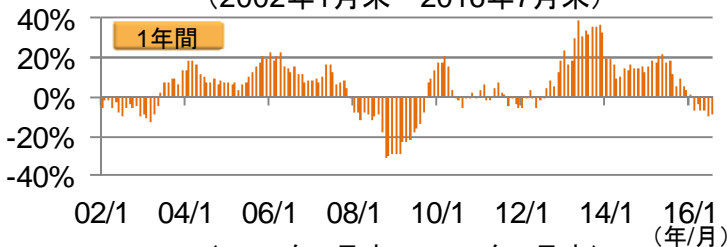
資産運用において、短期的には市場変動の影響によって、収益の変動が大きくなる局面もありますが、長期投資と分散投資(株式や債券など異なる資産に分けて投資すること)を組み合わせることで、長期的には収益が安定する傾向にあります。例えば、GPIFの基本ポートフォリオを基にした投資比率(以下「分散したポートフォリオ」)で、1年間または10年間運用した場合の収益率を比べると、1年間では収益率のバラつきが大きかったものの、10年間ではバラつきが小さく、さらに収益率がマイナスとなった期間はみられませんでした。

とはいうものの、金融市場の急落時には、相場の先行きへの不安から運用を止めてしまいがちです。しかし、その場合は、損失が確定するだけでなく、次の上昇局面を逃す可能性もあります。例えば、リーマン・ショック前の高値である07年6月末から分散したポートフォリオで運用を開始した場合、最も下落が大きくなった09年2月末で止めると35%のマイナスになりましたが、その後も運用を続けると、約4年半でマイナスを取り戻し、足元では運用開始から約20%の上昇となっています。

一般に、下落局面後の上昇局面がいつになるのか予測することは難しいうえ、複数の資産に分散されたポートフォリオでも、短期的な収益の変動は避けられません。しかし、短期的に収益がマイナスになったとしても、運用を続けることが将来の収益獲得のためには重要と考えられます。

分散したポートフォリオの収益率

(2002年1月末～2016年7月末)



(2011年1月末～2016年7月末)



収益率は2001年1月以降の各月末から1年間および10年間のリターン(年率)を記載。月次データを使用。

※分散したポートフォリオ: GPIFの基本ポートフォリオ(国内株式25%、海外株式25%、国内債券35%、海外債券15%、作成時点)を基にした投資比率で、月次リバランスしたもの

※国内株式: TOPIX(東証株価指数、配当込み)、海外株式: MSCI KOKUSAIインデックス(除く日本、配当込み) ※国内債券: NOMURA-BPI総合、海外債券: シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース) ※米ドルベースの指数を日興アセットマネジメントが円換算

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

分散したポートフォリオの推移

(2001年1月末～2016年7月末)



日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。